

《 概要 》

《 実証結果 》

取組概要**(1) 導入実績 (実施地区及び団体、導入回数)**

- ①野老山 (ところやま) 地区 3回
- ②大桐地区 1回
- ③明治東部地区 1回
- ④越知地区 5回

計 10 回導入

(2) 運用方法 (効率的な利用方法、持続可能な仕組みづくりや担い手確保に向けた工夫などを記載)

(保管先) 野老山公民館

(運搬方法) 集落支援員

(予約方法) 事前に日程調整

(利用料金) 無料

(利用に関するルール)

- ・集落支援員が同行すること
- ・安全性を考慮し2人以上で実施すること
- ・地域のために使用すること

(その他)

- ・導入に際して、集落支援員がロボット草刈り機のモデル地域で操作方法などの説明、デモンストレーションを行った
(説明対象者：地域団体や区長、地域住民など)
- ・地域新聞や広報誌、SNSにてロボット草刈り機の導入を周知し、普及促進を図った



※導入したロボット草刈機の写真



※実演会の写真

(1) 成果

(ア) ロボット草刈機の導入による効果

【定量的】

作業時間	導入前	→	導入後	負担軽減率
	43時間		29時間	33%
人役	導入前	→	導入後	負担軽減率
	26人		18人	31%
作業面積	導入前	→	導入後	生産性向上率
	2310㎡		2310㎡	0%

【定性的】

- ・体に直接振動が伝わらないため、刈払機より負担が少ない
- ・1度に広い面積を一定のスピードで刈ることができる
- ・刈払機に比べると刈った後の仕上がりに粗がある
- ・ラジコン草刈り機だけでは完結しない土地が多く刈払機での草刈りも必要

(イ) 持続可能な仕組みづくり (共同利用の方法)

- ・集落支援員を中心にスタートしたことにより、モデル地域への周知がスムーズにできた。また、他地域への使用も広げることができた。

(2) 課題

- ・車への積み下ろしや斜面での作業は何度か実践を行い操作の習得が必要。
(地域団体への操作習得の普及)
- ・畝や、株等があると止まってしまう為土地の事前確認や環境整備が必要
- ・土地が狭かったり進入路が対応できていなかったりする場所が多く、ラジコン草刈機で対応できる場所は、集落の草刈りを必要としている場所のなかでも限られる
- ・集落道の草刈りは対応できない。

(3) R6以降の運用方針

- ・安全な利用且つ機械の長期利用の為には当面の間、集落支援員や操作習得者の同行を行う
- ・地域団体の利用回数が増え、操作に慣れた方には貸出を検討する